

令和1年度 老朽化した生産設備における 安全対策の調査分析事業

令和1年8月28日

厚生労働省委託調査

委託先 (株)三菱ケミカルリサーチ

仕様書抜粋

■事業目的

平成25年の調査によると、製造業において20年以上経過した生産設備が約3割、30年を超えたものが約1割となっており、平成6年の前回調査時と比較して、生産設備の老朽化が進展している。

生産設備の経年劣化を直接の原因とする死亡災害は、設備の腐食による墜落災害に限っても過去10年で11人発生しており、死傷災害については、昨年中だけで、経年劣化したタンクやパイプ接合部のボルト緩みによる化学物質の淵洩と火災、内側が腐食した圧力容器の破裂、腐食した食品加工用コンロの不完全燃焼による一酸化炭素中毒、腐食劣化した点検用通路の踏み抜きなどの災害が、多発している。

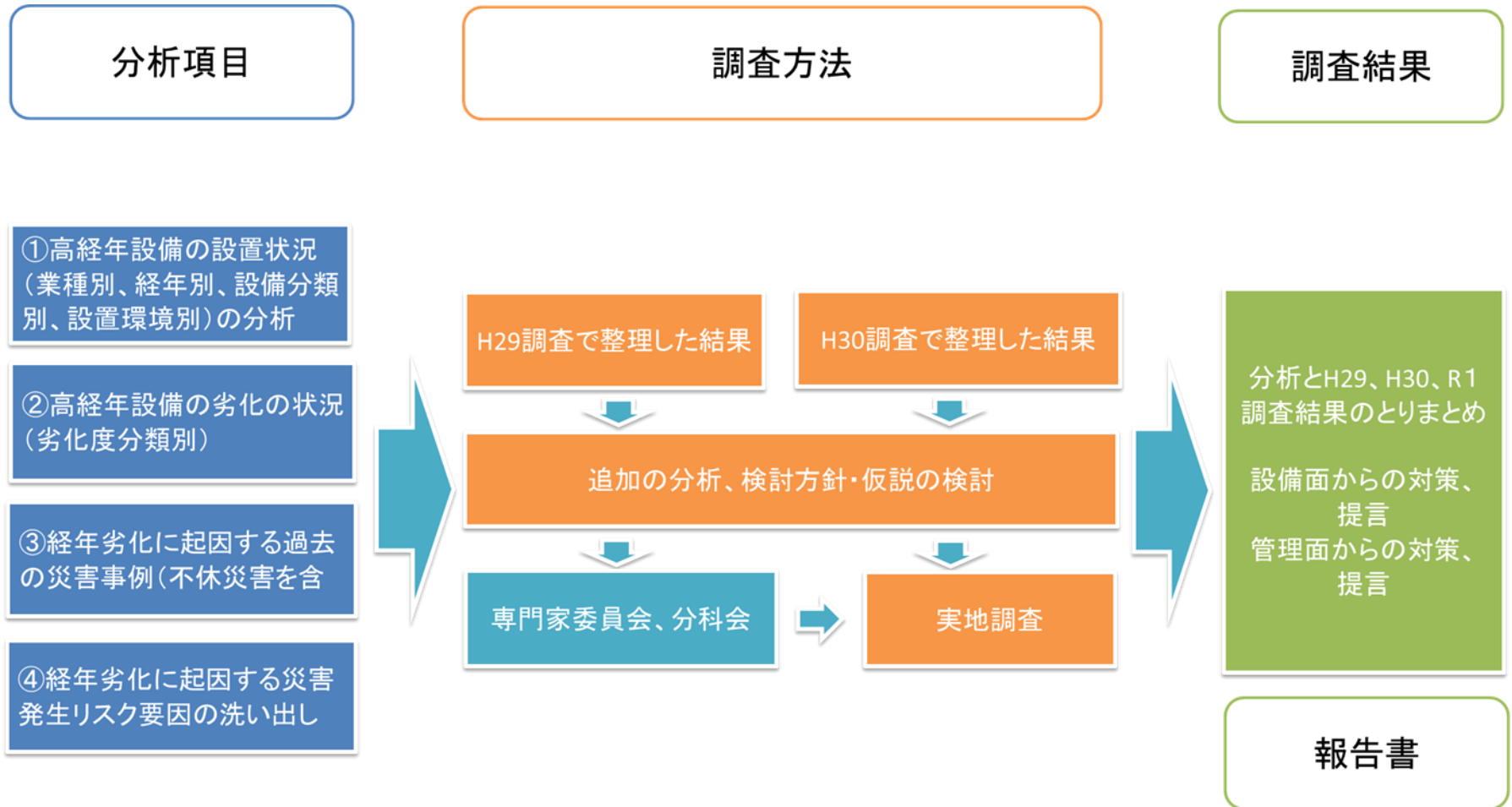
そうした中、平成28年には鉄鋼業における労働災害の増加を受け、経年設備の視点から、同業界に対して調査を実施し、公表したところであるが、鉄鋼業という限られた業界におけるアンケート結果を集計したものにとどまり、他業種への展開や詳細な分析が求められるところである。

労働安全衛生法では、経年劣化によるリスクの低減という観点からの規定はなく、経年劣化の点検の基準や手法も確立していない。このため、経年劣化による労働災害のリスク低減措置のため、経年劣化した生産設備に起因する労働災害等に係る実態の調査・分析及びそれに基づく労働災害防止対策をするとともに、検討結果等についての報告書やパンフレットの作成し、その普及を図る必要がある。

■実施内容

- (1) 実地調査
- (2) 調査結果の分析
- (3) 報告書及びパンフレットの作成

事業の全体(仕様書記載内容(R1年-3年目)をもとに作成)



令和1年度調査の進捗状況と今後の予定

専門家委員会、分科会、他	内容
第1回専門家委員会(6/11)	調査方針の審議と確定
第1回分科会(6/27)	H29、H30アンケート結果の追加分析、仮説の検討
第2回分科会(8/8)	仮説の検討、実地調査内容の検討
第2回専門家委員会(8/20)	仮説の承認、実地調査内容の検討、承認

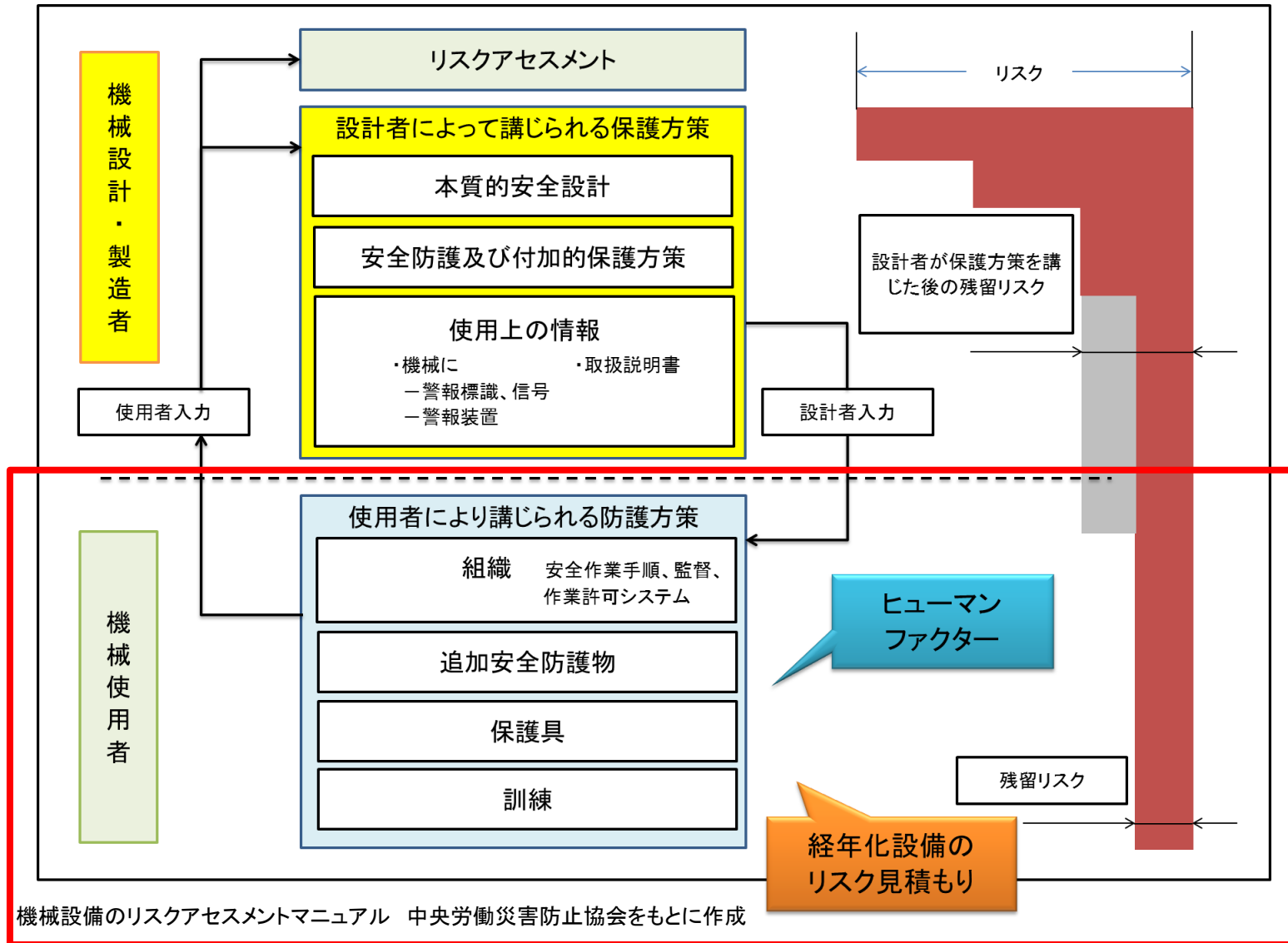
仮説の検討、(4M+A)として整理

- 経年化した動力機械と付帯設備の分析と仮説(マシン+エージド)
- ベテラン社員の退職と技術伝承の問題からみた分析と仮説(マン)
- 管理面からみた対応状況の分析と仮説(メソッド)
- 原料や製品に起因する付着・異物の問題の分析と仮説(マテリアル)

実地調査(9~10月) 5事業場	実地調査による仮説の検証と良好事例の収集
第3回専門家委員会、第3回分科会合同開催(10/3)	実地調査結果の中間まとめ
第4回~第6回分科会(11~2月)	3回程度開催により対策と提言を検討
第4回専門家委員会(12/18)	対策の中間検討結果の審議
第5回専門家委員会(2/19)	調査結果のとりまとめ、提言

本調査のアウトプットイメージ(01)

機械の設計／製造者と使用者の関係(産業機械)



本調査のアウトプットイメージ(02)

